

G-2 海外ファンド機関とのパートナーシップ による若手研究者の国際化支援



ようこそ - Welcome - Willkommen

京都大学は、ドイツ学术交流会（DAAD）と共同で、「国連の持続可能な開発目標(SDGs)」達成を推進しようとする若手研究者の研究交流の促進を図るマッチングファンドプログラム「DAAD-Kyoto University Partnership Program towards SDGs」を設立した。URAが海外資金提供機関と共同ファンドを立ち上げた事例としては、国内では初めての試みであろう。国際共同研究の強化・促進は多くの大学が共通して抱える課題であり、そのためには若手研究者の国際的なネットワーク構築を支援する仕組みをより強化することが必要である。そこで、若手研究者の育成や国際化支援を担当する他大学のURAや資金提供機関、社会・企業を交えて取り組み事例を共有・議論してゆくことにより、新たな支援モデルへの展開を考えたい。当セッションでは、京都大学およびDAADのプログラム担当者より、若手研究者の国際化の意義と課題を含め、本パートナーシッププログラムの設立経緯と枠組みについて紹介し、本枠組みでドイツに派遣された若手研究者からの現地での滞在・ネットワーク開拓の報告を行う。次に、ドイツとの若手研究者交流を支援する財団等が、取り組みの事例を紹介する。最後のディスカッションでは、持続的な支援プログラムの展開にむけた大学・URAと財団・社会との連携を含めた課題と展望について意見交換を行い、若手研究者の国際ネットワーク促進を広く支える機運を高めることを目指す。

Organized by KURA's  members & partners

〔間：AI DA (Ambitious Intelligence・Dynamic Acceleration)〕は、京都大学学術研究支援室 (KURA) が国際的なファンディング機関等と協働して開発し運営する研究の国際化を推進するプログラムの総称で、志の高い若手研究者(ECR)のキャリアアップを後押しすることを目指すものです。

□ 若手研究者の国際ネットワークの必要性についての議論

□ 認識される課題

文部科学省「科学技術・学術分野における国際的な展開に関するタスクフォース」(2017.7.31)

➤ トップ10%論文における我が国の国際シェアの低下

⇔ (欧州では) Horizon 2020等を背景として、国際共著論文が増加 (英・独の国際共著論文数は日本の約3倍)

➤ 研究者の国際流動性が、2000年頃をピークに減衰

⇔ (欧州では) 研究者は学生や研究キャリアの初期段階から、高い流動性がある

□ 大学やファンド機関に期待される対応策

➤ 1. 研究自体の国際化

・ 海外の卓越した研究者との共同研究を行う / 第一線の研究者の引きつけ

➤ 2. 研究に関係するファンディング機関や大学の教育研究環境の国際

・ 海外機関とのマッチングファンドによる国際共同研究の促進 / 海外拠点事務所の連携・活用

➤ 3. 若手研究者の国際化

・ 学部・修士課程段階における留学・国際経験 / 研究キャリア早期での国際共同研究企画を通じた切磋琢磨

➤ 4. 「持続可能な開発目標」SDGs (Sustainable Development Goals) への貢献と STI for SDGs



大学 (URA)、ファンド機関・社会が連携し、若手研究者の
国際ネットワーク促進を広く支えることが必要

G-2 海外ファンド機関とのパートナーシップによる 若手研究者の国際化支援

RA協議会 第5回年次大会
2019.9.4

□ 講師紹介

Organizer



園部太郎、鈴木環、桑田治、仲野安紗
(京都大学 学術研究支援室)



Dorothea Mahnke
(DAAD Tokyo Office)



小川 研之
(中谷医工計測技術振興財団)



西岡 千文
(京都大学 附属図書館)
AIDA 派遣研究者



Jeffrey Robens | 宮崎 亜矢子
(Springer Nature)



雪野 弘泰
(山岡記念財団)

□ セッションの流れ

□ 趣旨説明・講師紹介

□ DAAD-Kyoto Partnership が目指す日独のモビリティ促進について

- ・ 桑田治 (京都大学 学術研究支援室 URA)
- ・ Dorothea Mahnke (DAAD Tokyo Office, Director)
- ・ 西岡 千文 (京都大学 附属図書館 助教)

□ ファンド機関・国際出版社による若手研究者の国際化支援の取り組み

- ・ 小川 研之 (中谷医工計測技術振興財団)
- ・ 雪野 弘泰 (山岡記念財団 常務理事)
- ・ Jeffrey Robens | 宮崎 亜矢子 (Springer Nature)

□ ディスカッション、Q&A

モデレーター：仲野 安紗 (京都大学学術研究支援室 URA)

□ 総括、閉会

司会：鈴木環 (京都大学学術研究支援室 URA)